

地域おこし協力隊の活動日記

飛騨市内で活動している地域おこし協力隊。市内に存在するさまざまな地域資源を活用し、地域の特色を活かした産業の創出を図ります。

地域おこし協力隊の活動内容紹介
〜河合町に住んでみて〜

隊員 戸村 元哉



昨年の12月20日より、河合町で地域おこし協力隊員として活動している、戸村元哉です。

出身は愛知県小牧市で、現在は河合町稲越に一人暮らしをしています。

こちらに移住してから、まだ1カ月程しかたつていませんが、河合町での生活は、これまで住んでいた小牧市とは大きくかけ離れたものになりました。

一番驚いたのが一夜にして1℃以上

の積雪となり、玄関扉を開くのに苦勞したり、早朝から除雪車が大きなエンジン音を立てながら除雪作業に走り回っていることです。これほどの大雪はニュースでしか見たことがありませんでした。

小牧では屋根に上る機会は無かったので、河合町に来て初めて屋根の雪下ろしという作業を体験しました。屋根の高いところでは、足がすくんで動かせませんでした。



自然は容赦なく雪初心者の僕に対し「雪の洗礼」を浴びせ、豪雪地で暮らすことの大変さを知りました。しかし、雪は悪い事ばかりをもたらしではなく、太陽の光を浴びてキラキラ光る雪景色は、とても幻想的でこれも雪国ならではの特権と思えました。山に興味がある自分としては、部屋の窓から北アルプスの神々しい山々を望める

のは非常にラッキー！と一人暮らしを満喫しています。

また、ふと夜空を見上げると手が届きそうなくらいに近く感じる星空を見ることができ、毎日大自然の雄大さに圧倒（感動）される自分ですが、河合町に来て良かったと思っています。

そんな自然が豊かな河合町で地域おこし協力隊としての僕のミッション（使命）は、河合町のことを広くPRする事です。そのためには、まず河合町を深く知ることが必要と考え、この1カ月の主な活動を紹介したいと思います。

①山中和紙づくりの現場にお邪魔し、和紙の歴史や作り方を教えてもらいました。原料のコウゾを雪にさらして作る山中和紙は、雪深い河合町ならではの伝統工芸品だと感じました。

②かわい野草茶研究グループを訪問しました。飛騨河合の野草茶には、ミネラルなど身体に良い成分がたっぷり含まれており、飲用を続けている方の中には、医者いらずになったというお話を聞きました。

③雪匠組（僕と同じくらい年代の方々）や河合町地域振興協議会、河合町区長会の会合に同席させてもらい自

己紹介の機会を頂き、少しずつ行動の幅や人脈づくりを広げています。

④その他の活動として、業務の間を縫って河合町の史料を読み、地域の情報収集に努めています。中でも驚いたのがあの有名な法隆寺の釈迦三尊像（国宝）の造仏者は、河合出身の「止利仏師」によるもので、17歳で都へ上り、飛騨の匠の元祖になったという伝説があることや、「ああ野麦峠」の主人公である「政井みね」は、角川出身で優秀な工女（通称：百円工女）であった事実です。河合町はこのような偉大な方が残した功績を持つ地域であることを大変誇らしく感じました。

今後も河合町にまつわる人々の文化・風俗・歴史について勉強し、河合町の魅力をSNSで多くの人に伝えていきたいと思っています。

最後になりますが、「君の名は。」展に行ってきました。飛騨古川駅をはじめとする自分たちの日常ありふれた場所が、外部の人にとって特別な「聖地」となることは、自分の住んでいる町に誇りを持つ瞬間だと思っています。（まだ一カ月しか住んでいないのにこのような発言をすることは恐縮ですが…）

これからも日々活動してまいりますので、よろしくお願ひします。

